

国際社会に開かれたまちを目指して ～英国交流事業で活躍するCIR～

福島県本宮市教育委員会教育部国際交流課

はじめに

本宮市は福島県の中央部に位置する、人口約3万人の小さな自治体です。市のほぼ中央部を一級河川の阿武隈川が縦断するように流れ、北西には日本百名山にも名を連ねる安達太良山を望みます。交通アクセスの良さから製造業の工場が多く立地し、福島県内でも有数の工業地帯となっています。

グローバル人材の育成・多文化共生意識醸成のため、国際交流、特に英国との交流を積極的に行っています。東日本大震災から復興の途上、2015年に英国王室のウィリアム王子（現皇太子）が被災地視察のため訪れたのが本市でした。その際、視察先の公園の愛称を「プリンス・ウィリアムズ・パーク」とするのを認めていただき、震災復興を祈念して英国に開設された「福島庭園」と姉妹庭園を締結したことがきっかけとなり、市内中学生による英国訪問、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における英国の「復興ありがとうホストタウン」登録など、さまざまな交流事業を行っています。



プリンス・ウィリアムズ・パーク英国庭園

本宮市 CIR の活動内容

本市は2018年から国際交流員（CIR）の任用を始め

ました。国際交流事業推進に伴う通訳・翻訳業務の増加に加え、英国との交流を市のレガシーとするにあたり、市民の英国に対する理解促進を担う人材が必要となったためです。英国に特化した交流のため、これまで任用した3名のCIRはいずれも英国出身者です。

現在任用しているエイミー・ブラウンさんは、2022年8月下旬に本市のCIRとして着任しました。同年9月には本市職員による英国訪問に同行するなど、着任早々から精力的な活動を行っています。



英国訪問に同行するCIR（右から2人目）

英国訪問事業での活躍

2023年7月初頭、本市中学生を中心とした英国訪問事業「未来へつなげるもとみや英国訪問団2023」を実施しました。福島県の「地域創生総合支援事業（サポート事業）」の採択を受け2017年度より開始した事業ですが、近年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、訪問団派遣は4年ぶりとなりました。

渡航も含め約1週間の短い行程の中、英国オリンピック委員会や姉妹庭園締結先の区役所、生徒間交流を行う学校など、訪問先は多岐にわたりました。しかし、英語と日本語が堪能なCIRが窓口となることで、各所とのスケジュール調整・交流内容の打ち合わせは非常にスムー



訪英する生徒への英会話指導

ズに進みました。

また、渡英する中学生たちのサポートにも CIR は大いに活躍しました。彼らは訪問先の学校で同年代の生徒たちとの交流活動を行いましたが、渡英前の時点では英語でのコミュニケーションに強い不安を抱いていました。そこで当初予定していた学習会に加え、学校のお昼休みの時間を活用して CIR による英会話指導を実施しました。適切な指導はもとより、高いコミュニケーション能力で



英国での生徒間交流（前列左端が CIR）



小学生を対象に英語の絵本の読み聞かせ

信頼関係を構築できたこともあり、CIR の同行は生徒たちに大きな安心感を与えました。学校訪問は非常に活気ある有意義な交流活動となり、中学生たちは本活動を通して強い達成感を得ることができました。

訪問先との調整、中学生たちのサポートなど、高い柔軟性が求められる本事業を成功裏に終えられたのは CIR の存在あってのことです。

市民へ向けた英国文化の普及活動

本市では市民向けの講座「フレンドシップカフェ」を毎月 1 回開催しており、CIR が企画立案を含む運営を一手に担っています。実用的な英会話や英国の文化・価値観を学べる講座は好評で、毎回多数の参加者を集めています。また広報誌への連載や本宮市 CIR の Facebook 運用、市内コミュニティラジオ番組への出演など、多種多様な媒体を活用した情報発信を行っています。

英国文化は本宮市民にとってもなじみ深いものとなりつつあり、2023 年には商店街主催の「ロンドンマーケット」が市内で開催されました。歴代 CIR による活動は着実に実を結びつつあるといえるでしょう。



「フレンドシップカフェ」で講師を務める CIR

国際社会に開かれたまちづくり

本市の国際交流・国際理解事業を推進するにあたり、CIR は欠かすことのできない存在になっています。今後、それぞれの事業をさらに深化させ、国際社会に開かれたまちづくりを推進できるよう、CIR とともに尽力していきます。